

徳善寺だより

創刊号 平成14年7月15日

◆ 創刊にあたって

盛夏の候、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、徳善寺だよりを出すことになりました。ご門徒との皆様と徳善寺がより一層身近に感じられるようにして頂きたいと思い、出版させて頂きました。仏事に関すること、また近況報告など色々と考えていきたいと思っておりますので、ご意見や質問等ございましたら、お参りの際言っていただければありがたいと思っております。

合掌

◆ おたより

《彼岸会法要》

3月16日に再建最初の法要を当寺で行いました。前住職の他界後をはじめのことでしたが、ご門徒皆様多数のお参りをいただき、盛大に行うことができました。

久方ぶりに本堂で、皆様のご読経唱和の声を聞き、思わず「南無阿弥陀仏」心の中で念じました。ご都合でお参り願えなかったご門徒の皆様、次には是非お参り下さい。

◆ 法要の予定

- | | | |
|------|---------|---------------------|
| ・報恩講 | 10月～11月 | ※ 予定になっております。皆様をお誘い |
| ・彼岸会 | 3月 | の上、是非徳善寺の方へお越し下さい |
| ・永代経 | 5月 | ますよう、お願いいたします。 |

◆ うらぼんえ 盂蘭盆会 (お盆)

盂蘭盆とは、梵語ウラバナの音写で、「倒懸^{とうはん}」と訳します。木にさかさまにかけられるということで、非常な苦痛をたとえたものであります。

釈尊のお弟子^{ひやくみ ほんじき}が、百味の飯食^{くどく}をもって四方の僧たちに供養し、その功德^{くどく}によって餓鬼道^{がきどう}におちて倒懸の苦しみをうけている母を救ったという経説が行事となったもので、父母や祖先を追憶し、これに孝養^{きょうよう}をつくすということが、この行事の趣意であります。

しかし、今日ではそれにいろいろな迷信的なものが、附加されてもいるようです。

わたくしたち真宗門徒としては、雑多な迷信的なものをすべてぬぐい去り、静かに目蓮尊者^{もくれんそんじや}の故事を偲んで、深く親の恩、祖先の恩をおもい、その孝養報恩の念を仏法の報恩にまで深め高め、これを縁としていよいよ信へすすみ、本願念仏のすくいをよろこび、そして、道綽^{どうしゃく}禪師^{ぜんじ}の

「先に生れん者は後を導き、後に生れん者は前を訪い、連続無窮^{むぐう}にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんが為の故なり」

のお心をかみしめたいことでもあります。

したがって、「お精霊^{しょうりょう}迎え」や「精霊祭り」などいたしません。またさまさまの雑多なかざりや、迎え火、送り火などもいたしません。

◆ 編集局後記

私たちのお寺が再興されて、五ヶ月が経ちました。疎遠になりましたお寺と再び私たち門徒に近いものとし、皆さんに親しまれるお寺にしたいと考え、「徳善寺だより」を創刊いたしました。祖先から引継ぎました徳善寺を、より親しみあるものにしたいと考えています。ご門徒の皆さまのご協力を期待しております。